

ふ る さ と

きた が わ え り こ

北川悦吏子

さん

美濃加茂市出身で、現在大活
に「ふるさと」の思い出を、執
たので紹介します。



北川悦吏子さん
1961年12月24日 美濃加茂市太田町生まれ。
太田小学校、西中学校、加茂高校、早稲田大
学第一文学部東洋哲学科を卒業。テレビドラ
マの企画の仕事を経て、脚本家（シナリオラ
イター）として現在活躍中。
驚異的な視聴率だった連続ドラマ「素顔のま
まで」をはじめ、「世にも奇妙な物語」「その
時、ハートは盗まれた」など、数々の作品を
手がける超売れっ子脚本家。手がけたドラマ
が次々にヒットしている。



お正月の空気

子供の頃、12月31日だけは、
遅くまで起きていても良かった。
紅白歌合戦が終わって、ゆく
年くる年が始まって、新年まで
の秒読みが始まる。
わくわくした。

31日と1日、たった一日だっ
だけで、空気まで変わってしま
うような気がしていた。
まだ、本当に幼い頃、夜中の
12時に父の肩車で神社まで初詣
に行った覚えがある。

冒険だった。
夜中に外に出る。ふだん一人
じゃ行かないような遠くの神社
まで行く。夜中なのに、人が集
まっている。焚き火をしている。
そして、年は変わったばかり
だ。生まれたての昭和何年かが
そこにあった。

やがて、中学校になると、実
はそんなに遠くでもなかった神
社の前を自転車で通って、家に
帰って来るようになった。
その神社には「私って綺麗？
これでも、綺麗？」とマスクを
取って聞くと、口裂け女が出
ると言われて、暗闇が迫る頃は、
結構こわくて、ともだちとふた

り、自転車のスピードを上げた。
夜中の初詣は、もう行かなく
なっていた。

だけど、年が変わるといっ
つのはやはり一大事で、12時にな
ると、わざわざともだちと電話を
かけあって、年が変わったと、
はしゃいだりした。

そして、新年にはクラスのだ
の男の子から年賀状が来たかが、
一番の話題になった。

東京の大学に出て、東京で働
くようになったも、お正月には
美濃加茂に帰った。

久しぶりに初詣に行った、口
裂け女の神社はすっかり新しく
きれいになってしまっていた。

そこで、かつてその神社の前
を一緒に駆け降りたともだちに
久しぶりに会った。

彼女の腕の中にはかわいい赤
ちゃんがいいた。

時は確実に過ぎていき、私た
ちは大人になり、あんな風にわ
くわくしながら新年を迎えるこ
ともなくなっただけれど、あの頃
の気持ちはきつと忘れない。
すっかりお田さんの顔で子供
をあやす彼女に、私はふと口裂
け女の話がしたくなった。

北川悦吏子